

助け合いふれあいあふれる 街づくりのお手伝い

大分県大分市 ボランテニアみちの会

1. 2000年秋結成初心者ばかり19名が

私たちボランテニアみちの会は、2000年秋、大分市ボランテニアセンター（大分市社会福祉協議会内）主催のボランテニア入門講座の修了生19名で結成し、初心者ながら、高齢者施設「庄の原苑」のデイサービスや外出介助のお手伝いを始めました。あれから20周年を経て、コロナ禍で活動が大きく制限された後、今年度は、23年目の活動をマイペースで行っています。

2. 「できる人ができるときに

できること」をモットーに

「できる人ができるときにできることを」をモットーに仲間と共にボランテニア活動を楽し

んできました。

さらに会規則にも掲げていますが、①会の一員であることが、快い「みちの会」を目指します。②新たな出合いを求め、感動と感謝を分かち合えるように、ボランテニア活動に取り組みます。③総てのメンバーとの密な意思疎通を常に心がけます。④メンバーひとり一人を大切に、役割分担は全員が納得の上決定します。

また、会員は、結成以来平均で28名が在籍し、現在は、30歳代から80歳代までの男性9名女性12名の合計21名で活動中です。平均年齢は67歳です。

生まれも、育ちも、職業も、好みも、そして年齢もみんなちがう人間が、ボランテニアというキーワードで知り合いました。「みんなちがって、みんないい」（金子みすゞ）という言葉

大切にしながら活動を続けたいと思っています。

3. 高齢者、障がい者、病院の支援。環境保全、公的イベント支援の5本柱で活動

活動分野は、なんでもやってみようの精神で、5つの柱である、高齢者支援、障がい者支援、病院支援、環境保全、その他公的イベント支援に取り組んでいます。

まず、高齢者支援では高齢者福祉施設のデイサービスやカラオケ教室、外出行事等のお手伝いを行ってきました。

障がい者支援では、障がい者施設での各種行事のお手伝いや、大分県身体障害者福祉セン



ター主催のパソコン教室（6年間受講生計67名）の講師及び運営を行っています。

病院支援では、主に日本赤十字大分病院で車椅子の手入れや総合案内ボランティアを結成当初の2001年から実施しています。

環境保全活動では、環境保全に取り組む大分県内の団体の里山保全活動や植林活動、野焼き作業等のお手伝いやみちの会独自で大分川流域でのごみ拾い活動や県内の身近な山での清掃登山を行っています。

その他公的イベント支援では、大分車椅子マラソン大会や別大マラソン、また、大分市内の夏祭り、2019年にはラグビーワールド杯大分大会などのボランティアも行いました。

20年間平均で活動時間2421時間、活動件数229件、参加者延べ788人です。



(高齢者支援) 高齢者福祉施設
「庄の原苑」デイサービス洗髪介助ボラ



(高齢者支援)
「庄の原苑」カラオケ教室ボラ



(障がい者支援) 障がい者支援施設
「ひまわりの家」餅つき大会ボラ



(障がい者支援) パソコン教室運営ボラ

4. 毎月欠かさず月例会

毎月1回、例会を開催し、前月の活動報告を行い、次月の計画を会員で協議します。毎月の実績、計画表をペーパーで作成し、同時に資料や写真、インターネットの情報等をプロジェクトで映写し、視覚的に理解しやすい資料を会員と共有し協議を行っています。

会議終了後は、出席者、欠席者を問わず、実績・計画表その他決定事項をLINEやメールで周知徹底します。このような形で月例会を20年以上（新型コロナウイルス感染拡大期を除く）欠かさず、丹念に行ってきたことが、活動が継続できていく要因ではないかと考えています。

5. 「会員の顔が見え、肉声が届く」手作りの会報づくり

年2回（春季号、秋季号）活動のPR、活動の記録化、会員の相互理解を目的に、会報「みち」を50部程度制作し、会員はもとより、関係団体等へもお配りしています。「会員の顔が見え、肉声が届く」の会報、「全会員参加による手作り」の会報を目指して、編集委員会を中心に共同作業により制作しています。

また、当会が運営している、障がい者対象のパソコン教室の受講生に会報を一人1ページ開放し、勉強の成果を発表する場の提供もしています。

6. 「助け合いふれあいのあふれる街づくりのお手伝い」を続けたい

私たちみちの会は、結成以来20年以上、ボランティア活動に取り組んできました。微力な私たちの活動がどれだけの人の役に立ったかは定かではありませんが、会員のボランティアの参加延べ人数は20年間で合計15768人です。仮に、会員一人が各活動で少なくとも一人以上の人と出会い、ふれあったと考えれば、ボランティア活動を通じて、1万人以上の方とふれあい、何らかの役に立てたのかもしれない。

現在会員21名で活動を行っていますが、亡くなった方、様々な理由で退会された方を含めるとこの20年間の当会のボランティア活動を担った会員は91名になります。少なくとも91名にはボランティアのすばらしさに触れ合えるきっかけを与えることができたのではないかと思っ

います。

また、20年前、パソコンをお互いに学びながら操作技術や知識の向上を図ろうと会内でパソコン勉強会を始めました。その後、2017年勉強会を外部に開放オープン化し、それに伴って「あすびあおいた」（大分県身体障害者福祉センター）主催のパソコン教室の運営を委託されました。並行して、教室の受講生を対象に、個人別のパソコン相談ボランティアを行ってきました。

さらに昨年の秋、大分市ボランティアセンター経由で難病と闘う患者の会からボランティア要請がありました。パソコンのできる事務長さんが退任されたために事務全体を手伝ってほしいとのこと。また、同じ頃、あすびあおいた主催のパソコン教室に別の患者の会の大分支部長さんが入られて、会報づくりを勉強したいとのお話がありました。私は、「みちの会でよ

ければ、お手伝いをさせていただきたい」とお話ししました。偶然にも同じタイミングで2つの患者の会のパソコンによる事務作業や会報の製作作業のお手伝いをするようになりました。

難病を抱えながらも患者の会の皆さんは仲間との交流を通して「幸せは必ずやってくる」「明るく生きて行こう」「喜び



(環境保全) 里山再生プロジェクト支援

と感謝で生きて行こう」と思い思いに、前向きに毎日をすごしています。それらの患者の会の皆さんの何かのお役に立てるならうれしいと考えています。

数年前、月例会に随分出席していないある会員からこんな話がありました。

「今は体調がすぐれずに活動はできませんが、みちの会の会員であることが生きがいなので会員でいさせてください」と。私は間髪を入れず、もちろんいいですよと答えました。半年後、奥様からの暑中見舞いのがきでその会員が病気を患い、初夏に他界したことを知らされました。

この会員の言葉を忘れずに、会員であることが生きがいだと言われるようなみちの会を大切に育てながら、今後もボランティア活動を通じて「助け合いふれあいのあふれる街づくりのお手伝い」をしていければうれいなあとと思っています。

(ボランティアみちの会代表 佐藤清一)



(病院支援) 「日本赤十字大分病院」総合案内ボラ



(病院支援) 「日本赤十字大分病院」車椅子整備ボラ